



文責 本宮小学校長 佐久間仁

## 東 日本大震災追悼集会

三月十一日、学校では半旗を掲げ、東日本大震災追悼集会を行いました。集会では、震災にまつわる話を聞き、地震や津波の恐ろしさ、災害に備えることの大切さを確認し、震災で亡くなられた方々のご冥福を祈って、全員で黙祷をしました。

災害はいつ起きるか分かりません。ご家庭においても、災害時の避難の仕方や連絡方法を確認するなど、子どもたちが自らの命を守る行動がとれるようご指導ください。また、非常時の持出品をあらかじめ準備しておくなど、万が一への備えを心がけていただくようお願いいたします。

### 【校長の話】

二〇一一年三月十一日、今から十四年前の今日、太平洋を震源と



する大きな地震、東日本大震災が起きました。

この地震によって、福島県をふくむ広い地域で、地面にひびが入ったり、斜面がくずれたり、建物が壊れたりする被害が出ました。

海に近い地域では、大津波が発生し、多くの方が波にのみこまれて亡くなりました。震災による死者は一万五九〇〇人、行方不明者は二五二〇人にのぼりました。警察や家族の方による行方不明者の搜索は今でも続いています。

この津波によって、福島第一原子力発電所の機能が失われ、建屋が爆発を起こし、放射性物質が飛び散って、県内の多くの場所で放射線量が高くなりました。当時、学校では、放射線量を低くするため、校庭の表面の土をけすつめたり、高圧洗浄機で壁やプールを洗ったりしました。子どもたちは屋外での運動や遊びを制限されるなど、学校生活に大きな影響が出ました。原子力発電所の廃炉作業は今でも続いており、解体が終わるまでに三〇年とも四〇年ともいわれています。県内各地では放射線量を測定し、安全かどうか監視を続けています。

近年の科学の進歩はめざましく、専門家があらゆる方法で地震の予

知を試みっていますが、大きな地震がいつ起きるかは正確には分からないというのが実状です。昨年は、九州などで地震が相次ぎ、南海トラフ巨大地震が起きるかもしれないというニュースが流れたことは皆さんも知っていると思います。大切な命を守るため、学校では毎年避難訓練をして、いざというときに備えています。家庭においても家族のひとと災害時のことを話し合っておくことが大切です。皆さんには自分の命は自分で守れる人になってほしいと思います。そして、近所の人々に避難を呼びかけたり、一緒に避難したりして、周りの人の命も守れる人になってほしいと思います。



## 卒業式に向けて



十二日、卒業式全体練習を行いました。卒業生、在校生、職員が一堂に会しての初めての全体練習でした。立ち方、座り方などを確認し、来賓役の先生に合わせ礼をする練習をしました。国歌、校歌、式歌では、息をたっぷり吸って、お腹から声を出すこと、呼びかけでは、感謝の気持ちが届くように心を込めてセリフを言うことを心がけて練習をしました。

卒業生の堂々とした姿を見て、在校生も最後まで集中を切らさず、立派な態度で参加することができました。コロナ禍を経て、今こうしてみんなで卒業をお祝いできる幸せをかみしめながら、感謝の心で式に臨んでほしいと思います。



### お知らせ(お願い)

◇十八日(火)、十九日(水)は給食がありません。お忙しい中ですが、各自お弁当の準備をお願いします。